

# 千葉県水道局の発展



今年で給水開始から80周年を迎える千葉県水道局。千葉県の発展とともに、大きく成長してきました。その軌跡をご覧ください。

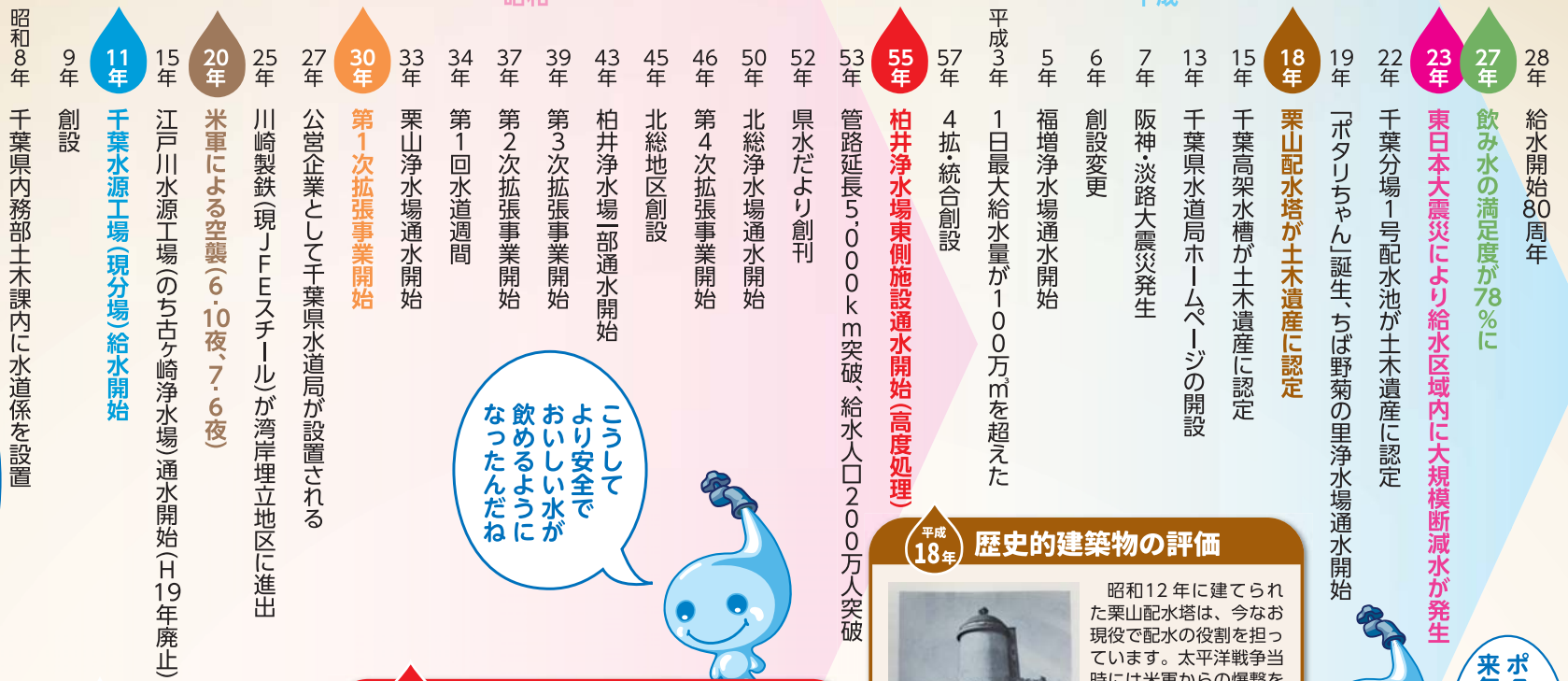
80th anniversary 2016年

1936年

昭和

平成

2016年



井戸水を利用していた時代から、いよいよ水道の時代が始まるよー

こうしてより安全でおいしい水が飲めるようになったんだね

ポタリちゃんも来年10周年!

**昭和11年 水道事業 給水開始**

千葉県の水道事業は、昭和9年に認可され、昭和11年に給水を開始しました。

水道事業が認可されたことを伝える新聞記事

**昭和55年 全国に先駆けた 高度浄水処理施設の導入**

柏井浄水場東側施設の水源である印旛沼は、昭和45年ごろから水質悪化が問題視されてきました。そのため、より安全な水の供給に向け、昭和55年に全国に先駆けてオゾン処理と活性炭処理を併用した高度浄水処理システムを柏井浄水場東側施設に導入しました。

高度浄水処理では、通常の浄水処理では十分除去することが難しい、かび臭原因物質などが処理できます。

オゾン処理設備

**平成18年 歴史的建築物の評価**

昭和12年に建てられた栗山配水塔は、今なお現役で配水の役割を担っています。太平洋戦争当時には米軍からの爆撃を逃れるため、建物全体をペンキで真っ黒に塗ってしまったこともあったそうです。地域の歴史的建造物であることから、平成18年の土木遺産に認定されました。

今の栗山配水塔だよ。4月には見学会も開催したよ

給水人口 2,968,417人



**昭和20年 戦争による被災**

太平洋戦争中の昭和20年には、千葉市上空に飛来した米軍機により2回の空襲を受けました。千葉市市街は焼夷弾により広く焼かれ、水道施設についても、千葉浄水場が一時断水するなど大きな被害を受けました。

**平成27年 おいしい水づくり**

水道局では、お客様によりおいしい水をお届けできるよう、平成18年度に「おいしい水づくり計画」を策定しました。平成18年度、策定当時の飲み水満足度は30%でしたが、平成27年度の満足度は78%まで上昇し、大きな成果を上げることができました。平成28年度からは「第2次おいしい水づくり計画」がスタートし、安全でおいしい水を24時間365日飲んでいただけるよう、これからも全力で取り組んでまいります。

飲み水満足度グラフ

東日本大震災直後 30%

満足+どちらかといえば満足 78%

高度浄水処理を拡充させたり、残留塩素濃度を低くすることなどでおいしい水をつくっているよ

**昭和30年 増える水需要と事業拡張**

戦後の復興が進み、県内人口の増加に比例して水需要が増えると、昭和27年ごろから断水や減水が発生するようになりました。そのため昭和30年の第1次拡張事業を皮切りに、その後約30年の間に相次いで拡張事業を展開しました。

栗山浄水場 (現存する最古の浄水場 昭和33年完成 松戸市)

昭和30年の給水人口約20万人に対し、昭和56年の給水人口は約200万人に達し、この期間千葉県の発展とともに千葉県水道局も大きく成長しました。

北総浄水場 (北総地区の開発に伴う水需要の増加により建設 昭和50年完成 印西市)

**平成23年 東日本大震災の教訓**

東日本大震災の発生から5年が経過しました。まだ記憶に新しいこの大災害は、湾岸地域の液状化による大規模な管路の破損など、大きな被害をもたらしました。断水の対処にあたり、千葉県水道管工事協同組合や他の水道事業者など、関係機関の協力を得ながら復旧活動を行いました。

この経験を活かし、水道施設の耐震化や関係団体との更なる連携強化を進め、危機管理対策の充実などを推進してまいります。

**耐震管の導入**

地震が起きても安定して水が送れるように、「耐震管」の導入を進めています。「耐震管」は、管の継ぎ目部分の伸び縮みと抜け出し防止機能で、地震や液状化が起きても外れない構造になっています。東日本大震災の際も、耐震管は破損しませんでした。

耐震継手 地震や地盤沈下が起きても、衝撃を吸収したり、抜け出しを防止する機能がついています。

▲耐震管の一例

**熊本地震被災地への支援**

平成28年に発生した熊本地震の被災地に、水道局職員と、千葉県水道管工事協同組合の水道技術者を派遣しました。東日本大震災での復旧経験を活かし、漏水箇所の特定や修理など、現地の水道施設の復旧の支援を行いました。

漏水調査隊

応急復旧隊